

鏡川流域パートナーシップだより No.224 R7.7.8



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

現地・オンライン交流会でつながる関係人口！



7月3日(木)、毎週木曜 20時からオンラインで実施している「鏡川流域関係人口オンライン交流会」を現地・オンラインのハイブリッドで開催し、総勢13名で交流しました！

現地会場である「はりまやアンサンプル」には、「川から始める地方再生」の著者・水谷要さん(東京都在住)、鏡川流域関係人口講座2期生の川田玄一さん(東京都在住)、「ぼっちり」を始めてわずか1か月の「furufuru」さん(高知県安芸市在住)など、高知市外からも多くの参加者が集いました！また、現地会場での対談の様子をZoomで中継し、オンライン参加者との意見交換も行いました。オンラインでは、北海道、奈良県、香川県、高知市など、全国各地から参加者が集いました。

水谷さんが代表を務める「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」は、リバーブランディング(川を起点に地域の稼ぐ力と地域プロモーションを創造すること)を通じて、地方再生の取組を進めています。水谷さんの取組の記録や地方再生についての検討などを、著書「川から始める地方再生」に記しています。



北海道でIT企業に務めながら、大学院で「幸福感に満ちた地域社会の創出」についての研究を行う高野寛未さん。令和3年度、高知市で「ぼっちり」を導入するに当たり、ご意見を伺った専門家のひとりです。

今回、高知市にお越しいただき、ご自身の研究テーマを共有し、鏡川流域パートナーシップの取組を考える機会になりました！



北海道在住の「あいのまま」さんと、高知県安芸市在住のユーザー「furufuru」さんがZoomを介して対話をするなど、「ぼっちり」ユーザー様同士のつながりも広がっています！



高野さんによると、「①共に感じる→②語り合う→③育てる→④行動する」の循環が、地域に対する愛着につながるとのこと。この循環は、鏡川流域パートナーシップの取組の中ですでに生まれていると、参加者全員が認識していました。友人と川遊びをした思い出など、日常の中で生まれる人や地域とのつながりを大切にしていきたいです！



翌日、水谷さんと高野さんは、鏡川流域の各地を訪れ、取材を行いました！鏡川漁業協同組合や土佐山中川地区の「中川をよくする会」を訪れたり、土佐山平石地区で行われる神祭の準備を手伝ったりと、鏡川流域の人や自然、伝統に触れる1日になったようです♪



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょっどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android